



Title	<紹介> 三村晃功著『類題和歌集と公宴御会和歌の研究』
Author(s)	松本, 成葉
Citation	語文. 2023, 120, p. 42-43
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95417
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

紹介

三村晃功著『類題和歌集と公宴御会和歌の研究』

松 本 成 葉

本書は、「公宴御会和歌」関係の論考を主軸にして、中世および近世の類題和歌集の論考、類題和歌集関係の翻刻資料と和歌索引から成る研究書である。著者は、数多くある様々な類題和歌集を「和歌曼荼羅の世界」と称し、本書はその実証的研究である。以下、目次によって本書の構成を示す。

序章 概括

第一章 中世の類題和歌集

第一節 『二八明題和歌集』の新出伝本／第二節 『題林愚抄』の撰集資料／第三節 『題林愚抄』の歌題と撰集資料

第二章 近世の類題和歌集

第一節 『類題和歌集』の性格／第二節 『類題和歌集』の成立／第三節 『類題和歌』の成立／第四節 『新類題和歌集』の成立

第三章 公宴御会和歌

第一節 「正治二年二月二十五日後京極家当座歌会歌」／第二節 「文安三年七月二十二日公宴統歌」の成立／第三節 「文安四年八月十一日内裏御統歌」の成立／第四節 「永正八年月次和歌御会」の成立／第五節 『公宴統歌』の解題

第四章 和歌文献資料群像

第一節 『文明十三年着到千首』——解題・本文・初句索引——
／第二節 『和歌部類 一』——解題・本文・初二句索引——
第三節 『公宴統歌—永正四年関係分—』——解題・本文・初句索引——
第四節 版本『類題和歌集』未収載歌集成——
前書・本文・和歌索引——
第五節 『名家拾葉集』——本文・初二句索引——
第六節 『故人證詞集』収載「宗好詠草」——本文・初句索引——

終章 総括

あとがき／和歌索引

本書の構成は、「第一章」から「第三章」が論述部分、「第四章」が文献資料である。また、第一章と第二章は著者の「中世類題集の研究」（一九九六年一月、和泉書院）、「近世類題和歌集の研究和歌曼荼羅の世界」（二〇〇九年八月、青簡舎）を個別の面から補充する役割を担っている。

第一章は、『題林愚抄』の論証を中心とした内容である。第一節では、『古典籍特集玉英堂稀観本目録』（第二二八号、平成七・九）に紹介された『二八明題集』の新出伝本に関して、現存する他の諸本と比較検討して考証し、新出伝本が「室町後期写」の逸品であることを推断した。第二節では、『題林愚抄』の「陵園妾」や「上陽人」などの漢故事題の例歌を検討し、当該例歌に限れば選集資料の中心は『夫木抄』であり、その他は原点資料からの採歌であること、勅撰集では『金葉集』『玉葉集』『新千載集』『新続古今集』などが、定数歌では『永久百首』『為忠家初度百首』などが想

定されることを論証した。これにより、『題林愚抄』の編者が後花園院や後土御門歌壇で活躍した飛鳥井雅親などの廷臣歌人の可能性を示唆することを指摘した。第三節では、『題林愚抄』の歌題と選集資料の問題を「郭公」に関する歌題から精査し、歌題・例歌の配列やそれらの採取方法から『八代集部類』などの特定の選集資料が想定されることなど、編者営為の問題にも新たに言及した論考である。

第二章は、『類題和歌集』の伝本を精査し、各伝本の特徴や諸問題について言及している。また第四節は、白杵市立図書館蔵『新類題和歌集』の夏部を精査した結果、当該書が白杵市立図書館にのみ伝存する類題集であること、選集資料が後水尾撰『類題和歌集』と霊元院撰『新類題和歌集』の二集であること、その採録方法や成立時期の上限などを明らかにした論考である。

第三章は、「公宴御会和歌」に関する論考がまとまっており、本書の中心となっている。第一節は、『摘題和歌集』に、「正治二年二月二十五日後京極家当座歌会」で詠まれた、藤原良経・同定家・同隆信・同業清・寂蓮・西園寺公経等の詠歌各二首、計十二首が新出歌であることを論証した。第二節は、「文安三年七月二十二日公宴統歌」の翻刻と作者・構成・歌題・加点などから考察した論考である。第四節は、「永正八年月次和歌御会」について、その年以後柏原天皇のもとで企画された都度十三回の和歌御会の構成・歌題・詠出者などを明らかにし、さらにその和歌は二条派の伝統を継承した優美な佳作が多いことなど提示する。第五節は宮

内庁書陵部蔵『公宴統歌』の解題である。

第四章は、第三章「公宴御会和歌」に関する文献資料の解題・本文・和歌索引などが収録されている。そのうち、第一節『文明十三年着到千首』及び第二節『和歌部類 一』は初の翻刻資料となる。

本書は、論考のみならず、原文に忠実な翻刻資料と和歌索引が添えられており、今後の室町期和歌研究に必要な不可欠の一冊となるであろう。

(清文堂出版、二〇二二年八月、七七五頁、二四、〇〇〇円＋税)

(まつもと・なるは 本学博士前期課程修了生)